

天理参考館 ニュースレター

天理大学附属天理参考館
発行日：2009.10.15
発行：天理大学附属天理参考館
編集：広報普及

第61回企画展 世界の民族楽器

技が伝える時代のハーモニー

◇会期／11月30日(月)まで

現在開催中の企画展

「世界の民族楽器」は、芸術の秋を迎え、ますます賑わいを見せております。会期中には、さまざまなイベントを用意しており、館員のほか著名な方に話や演奏をお願いしております。さらに、11月15日(日)に開催します「民族音楽を楽しむ」では、開催当日、本番直前の30分間、プレコンサートとして「口琴の魅力と楽しい楽器たち」を行います。こちらもお見逃しなく！



今回の企画展では約250点の民族楽器をアジア、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアの順で紹介しています。ここではイベントにも多く出演するアジアの楽器について少し触れ、参考にして頂きたいと思えます。

アジアには中国やインド、さらにペルシアなどの音楽文化の影響で、多種多様な楽器が誕生しました。中でも3千年の歴史をもつ中国の古典音楽は、東アジアや東南アジア地域の楽器に多大の影響を与え続けました。笙、琵琶、胡弓、琴、ゴングなどは、宮廷儀式や演劇など

で演奏されることにより育まれてきた楽器です。それらはシルクロードや地域間交流を介して東西に伝播し、各地域の文化に浸透していきました。浸透する過程で、西洋楽器に影響を与えた筆、やチャルメラなどのリード楽器、機能性を向上させた琵琶などが生まれました。また外観に違いがあるものの音色は同じといった笙やケーンなども誕生しました。このようなことから、日本を始めアジアの国々には、類似の楽器が多くみられるようになりました。それらを展示品やイベントを通して理解して頂ければうれしく思います。

解して頂ければうれしく思います。

◇ミニコンサート

「オカリナとケーナの演奏と楽器紹介」

善久 (ZENKYO) 氏(オカリナ・ケーナ奏者)

日時／10月25日(日)午後2時から

会場／当館研修室

◇ミニコンサート

「民族音楽を楽しむ」

日時／11月15日(日)午後1時30分から

会場／当館研修室

◆列品解説

日時／11月26日(木)午後1時30分から

※11月15日は「関西文化の日」により入館無料



単面鼓
インド 長 28.3cm

2010年新春展

南海電車展

―鉄道コレクターの軌跡―

◇会期／2010年1月5日(火)～3月8日(月)

歴史ある南海電車は、和歌山と大阪の足を担い来年開業125年を迎えます。本展は2009年に收藏した故平芳資也氏の南海コレクションの中から、中核をなす切符や鉄道部品、自身で撮影した写真、観光案内や宣伝チラシなど各種紙資料を展示します。

40年近い収集活動の中で築き上げてきたそのコレクションから、収集や撮影といった、いわば「鉄道マニア」の形態をのぞいてみるとともに、老舗道の活動の一端に於いて頂ければ幸いです。



明治から戦中期に発行された乗車券
(1908～43年、高さ3.0cm)

◆列品解説

日時／1月26日(火)・2月26日(金)

いずれも午後1時30分から

会場／3階企画展示室

※開催記念券の配布(先着1,000名様限定でオリジナル記念券を進呈致します)



天理ギャラリー 第138回展

ギリシアの古代美術

◆会期/2009年10月5日(月)~11月28日(土)
◆場所/東京・天理ギャラリー

ギリシアの古代美術は、今からおよそ5000年前に芽吹き、海を介した遠方地域との接触によって開花します。紺碧の空と海によく映える大理石の神殿や彫刻、光沢の美しいギリシア陶器といった華やかで繊細な古代美術は、長い年月をかけて大切に育まれたのです。本展では当館の収蔵品を通して、古代ギリシアの神話の世界や人々の暮らしについて見ていきたいと思えます。



赤絵式パテラ
イタリア 前340-330年頃
径35.2cm

まず、第一章ではギリシア美術の展開と題し、先史時代からヘレニズム時代までの美術を主にギリシア陶器とテラコッタ像に焦点をあてて紹介致します。

次の第二章ではギリシア美術が語る世界と題し、展示品を通してギリシア神話と人々の実際の暮らしについて垣間見ます。ギリシア美術があらゆる時代において美の規範とされ、多くの人々を魅了してきた



赤絵式渦形クラテル
イタリア 前4世紀頃
高48.0cm



入館料/無料
開館時間/午前9時30分~午後5時30分
電話/03-3292-7025
交通/JR 神田駅より西へ約500m
地下鉄 新御茶ノ水・小川町 淡路町駅

理由は、複雑で微妙な心の動きまでが読み取れるほどの表現の奥深さにあるのではないのでしょうか。私たちは、その心の動きに触れたとき、その場にスリッパしたかのような不思議な感覚を覚えたり、また反対に、自分の日常に当てはめて考えてみたりします。このように共感を持つことで、よりギリシア美術の醍醐味に近付けるのかもしれない。この機会に、ギリシア美術の深みと魅力に少しでも触れて頂けると幸いです。

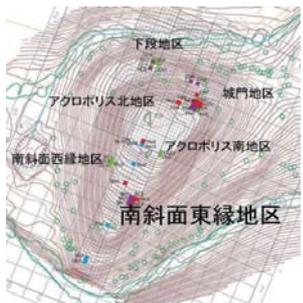
■ギャラリートーク(天理参考館学芸員が展示品の解説を行います)
10月23日(金)・11月21日(土)
両日とも午後1時30分から

◆◆東京・天理ギャラリーのご紹介◆◆
住所/〒101-0054
東京都千代田区神田錦町1-9
東京天理教館ビル9階

発掘調査(四) イスラエルにおける「テル・レヘシユ遺跡③」

昨夏に続き今年の夏もイスラエル国テル・レヘシユ遺跡で発掘調査を行ってきました。この遺跡の発掘調査は5回目になります。当館職員は4名参加しました。発掘調査を行っているのは日本隊で、科学研究費を用いて調査をしています。しかし、地元イスラエル人や韓国から参加している人なども混じっています。

レヘシユ遺跡の年代は前期青銅器時代からローマ時代にいたり、いろいろな出土遺物があります。それは本紙No.5にありますように発掘以前に採集されている遺物に各時期のものがあつたことからわかっていきます。遺構には各時期の建物があり、とりわけ遺跡の北東地区は町の城門があつたと考えていました。



テル・レヘシユ遺跡地形図

調査はこれまでに遺跡の頂上部を中心に合計8カ所を発掘しています。全てを紹介できないので、今回は頂上からやや南に下った東側の地区(南斜面東縁地区)について簡単に紹介します。この地区では上層に鉄器時代初期(前12世紀頃)の建物と下層に後期青銅器時代の建物(前14世紀)、さらにその下に

は中期青銅器時代(前18世紀頃)の墓、前期青銅器時代(前30世紀頃)の建物跡が重なっていました。いずれも遺跡東側城壁の内側に隣接しています。このうち、特に注目されたのは後期青銅器時代から初期鉄器時代に至る間に3基の円形遺構が見つかったことです。大小ありますが直径は1.5~2.0mほど、深さは50~80cmほどです。底と側面は板石で築かれており、石の隙間には粘土が詰めてありました。また、底はやや傾斜しており、最も低い位置には直径約30cmほどの円形の石製ポウルが置かれていました。こうした遺構を見るのは初めてなのでよくわかりませんが、地元考古学者はすぐに「オリーブの搾油施設」と教えてくれました。



円形遺構の1つ

中東地域ではオリーブは主要な農産物であり、その油は食用にも灯りにも用います。その油を絞るためのオリーブの実を砕き、ポウルに集めて布袋に入れ、圧力をかけて絞るのです。こうした遺構は遺跡の南端の地区でも2基見つかり、この遺跡がオリーブ油を主要な産物にしていたことがうかがえます。発掘の宿舎でも毎日、オリーブ油をサラダにかけたり、パンに付けたたりして美味しく頂きます。(山内)

見所 竹ノ内・萱生の環濠集落

当館から南へ約2km進むと、乙木の集落に入ります。そこから山際を通る山の辺の道へ向かい、ビニールハウスが続く田園地帯を南下すると竹ノ内や萱生の集落にたどり着きます。この2箇所は県内で最も高い所に造られた環濠集落で、現在も満面と水を湛えた環濠の一部が残っています。

環濠集落とは一般に、外敵から身を守るために、集落の周りに濠を巡らせた中世の遺跡です。奈良盆地には外敵の侵入を防ぎ、用水路としても機能してきた環濠をもつ集落が約220箇所確認されています。そのほとんどは低地部にあり、標高100mのこのような高い場所に造られた環濠集落はめづらしいといわれています。

現在、環濠は水利の発達により農業用水を溜める役目を終え、宅地化が進んでほとんどが埋め立てられてしまいました。しかし、その名残はまだ一部の集落で見ることができ、行楽の季節、山の辺の道を歩いて往時をしのぶのもいいかもしれませんね。(太田)



奈良県天理市萱生町の環濠集落

資料 女性座像



ギリシア・ポイオティア地方 前4-3世紀頃
陶土、型成形、彩色 高 17.4cm

左手で墓碑を抱き、右手につかんだヒマティオンで顔を覆い、嘆き悲しむ女性像です。墓碑の先端部分には、一對の渦巻文と、その上にパルメツト文を載せた装飾が施されています。その正面には供養物を入れるためのクラテルが置かれています。女性はキトンを身に着けてマントを羽織り、墓碑の基礎台に腰掛けています。流れるように地面までおろるキトンは、下半身の姿勢にそってなめらかな襞をつくり、当時の美しい墓地の情景に溶け込むかのようです。

古代ギリシアの葬儀では、人々は両手を挙げて髪をかきむしり、胸をたたいて地面を転がり回るなど大げさに悲しみを表現することが死者への弔いでした。しかし本例のように、女性が顔を伏せて嘆く姿は墓碑彫刻や陶器画に見られます。ヒマティオンの端をつかむしぐさが、内に込められた深い悲しみを一層暗示するかのようです。(飯降)

資料 赤い鍾馭を描いた明治の広告「引札」



明治時代中期 和紙に木版色刷
縦 24.9 cm × 横 36.7 cm

掲出は明治時代の商家の、引札という広告印刷物です。小鬼を蹴散らす中国由来の武神／鍾馭を赤色で勇壮に描いています。現代社会の最も大きな関心事のひとつは、世界規模の伝染病の流行でしょう。江戸時代、日本では特に疱瘡(天然痘)・麻疹・水痘(水泡瘡)を「お役」と称し、死に至る疫病として恐れました。そこで、これらの病いをもたらす神を退散させる方法として、これらの神の嫌う赤色で刷った疱瘡絵(赤絵)を貼るなどしました。鍾馭や武將の鎮西八郎などは特に効験あると頼みにされ、鍾馭は五月人形や屋根瓦にまで登場します。この引札は単なる広告ではなく、厄除けの縁起物としても使用されることを意図して制作されています。鍾馭と文明開化の象徴の石油ランプの取合せは新旧文化共存の明治世相を今に伝えています。(中谷)

発掘 古代のゴミ捨て場はタイムカプセル

当館は布留川南岸の東西にのびる河岸段丘上に建っています。この河岸段丘から布留川に向かう斜面を、昭和51年9月～52年3月にかけて発掘調査しました。調査の結果、古墳時代から鎌倉・室町時代にかけての建物、井戸、溝などが見つかり、出土した土器は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器など総数10万点を超えます。

中でも、古墳時代のお祭りに使った石製の玉類や剣形・鏡形の模造品、馬の歯骨が大量に出土していて、これらの遺物は、布留川の水の神に対して豊作を祈る儀式に使われたものと考えられます。

鎌倉・室町時代になると、たくさんの人々が住むようになり、布留川の斜面に積もった土の中には夥しい数の土器類が含まれ、まさに当時のゴミ捨て場のような状況でした。しかし、それらの遺物に混じって、中国製の磁器や宋銭、金銅製の瓶などがありました。都から遠く離れた大和の地にも、当時としては貴重品と思われる品々が普及していたことが分かります。

調査地のすぐ東には石上神宮があり、この付近一帯は、石上神宮と関わりの深い物部氏が住んでいたといわれる所です。後年の調査で古墳時代の大型建物群や大溝・工房が発見され、物部氏に関係する建物跡と考えられています。(高野)

公開講演会

トーク・サンjourカン

広く一般の方々に当館をさらに身近な施設として利用していただき、諸文化の理解と教養を深めていただくことを目的とする公開講演会です。講演は、いずれも午後1時30分(受付は午後1時)から研修室にて。受講無料(入館料が必要)。

第197回

「世界の民族楽器」

◇月日/10月17日(土)
◇講師/太田三喜(当館学芸員)

民族楽器とは特定の民族が奏でる楽器のことで、西洋の楽器とは一般に区別されず。しかし奏でる目的は同じで、祈りを捧げる時、死者を悼悼する時、精霊と交信する時、客人をもてなす時など、感情表現の道具であることに変わりありません。

今回は当館が所蔵する主な民族楽器を、系譜をたどりながら紹介します。

第198回

「埴輪祭祀はなかった」

◇月日/11月28日(土)
◇講師/山内紀嗣(当館学芸員)

古墳に立てられた埴輪は、これまで祭祀の道具として説明されることがありました。

しかし、埴輪の立てられていない古墳もあり



ます。そうした古墳でも送葬の儀礼は行

われたはず。埴輪のある古墳とない古墳でも儀礼は共通のほうです。そうだとすれば埴輪は祭祀のものではないことになり。

第199回

「寅・虎・トラの郷土玩具」

—開運出世の守り神—
◇月日/1月23日(土)
◇講師/幡鎌真理(当館学芸員)

2010年は寅年です。虎は「千里を駆けて千里を帰る」陸の王とされ、中国や朝鮮半島とともに日本でも開運出世の守護として尊ばれてきました。しかし実際には日本に虎は生息しません。全国各地の郷土玩具でも動物を題材にした玩具は多いですが、ほとんどが身近な家畜や小動物を対象にしています。見たこともない異国の猛獣を、昔の人々はこのように恐ろしげに、でも可愛らしく表現したのか!? 独特のユーモラスな寅・虎・トラの数々をご紹介します。

第200回

「でんでん太鼓 — 漢・唐・万葉 —」

◇月日/2月20日(土)
◇講師/近江昌司(当館顧問)

子守唄は”山のみやげに何もちた、でんでん太鼓に笙の笛”ですね。なぜ子守



唄にでんでん太鼓に笙が出てくるのか。そんな疑問を考えました。

第201回

「ギリシア神話の世界」

—彫刻・壺絵・コインにみる神々の姿—
◇月日/3月20日(土)
◇講師/飯降美子(当館学芸員)

私たちの身のまわりには、ギリシア神話にちなんだ言葉がたくさんあります。「ヨーロッパ」「サイレン」「アキレス腱」「ナルシスト」などはその一例です。古代ギリシア人が残した遺産を通して、豊かな精神で語り継がれた神話の世界に触れてみたいと思います。



「おしらせ」 「関西文化の日」

「関西文化の日」は関西(2府7県)圏域内の方々に広く美術作品や資料に接する機会を提供し、美術・学術愛好者の増大を図るとともに圏域外に向けても「文化が息づく関西」を広くかつ力強くアピールして圏域への集客を図ることを目的に催されます。

当館は本年もこの主旨に賛同し、左記の期間無料で常設展示および第61回企画展「世界の民族楽器」を観覧頂けます。

また、同期間にあわせ11月15日(日)には「コンサート」民族音楽を楽しむ」として各分野の演奏を行います。

◇期間/11月14日(土)〜16日(月)

利用案内

開館時間 午前9時30分〜午後4時30分
(入館は午後4時まで)

休館日 毎週火曜(休日の場合は休日後の最も近い平日)

ただし毎月25日〜27日、4月17日〜19日、7月26日〜8月4日は開館

創立記念日(4月28日)
夏期(8月13日〜17日)
年末年始(12月27日〜1月4日)

入館料 大人400円、団体(20名以上)300円、小・中学生200円(※)

※学校単位の団体は無料。事前申込要

交通 電車/JR桜井線天理駅・近鉄天理線
天理駅下車 南東へ徒歩約30分

車/西名阪道天理ICから国道169号線を南へ約3km 駐車場あり(無料)

その他 団体見学は事前にご連絡願います
世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学附属天理参考館

〒632-8540
奈良県天理市守日堂町250番地

Tel 0743-6318414
Fax 0743-6317721

URL <http://www.sankokan.jp>

携帯電話のサイトから情報をご覧いただけます

編集後記

二ニュースレター第7号をお届けします。今号は、今年度後半の展覧会、イベント情報をまとめました。来年当館は創立80周年を迎えます。1月の新春展からさまざまな展示やイベントを計画しています。どうぞご期待下さい。(片山)



QRコード